

学校だより

雲雀っ子

平成23年9月1日

第6号

各務原市立那加第二小学校

「一つ一つの実りを確かめて、より大きな実りに」

校長 森 進 一

日焼けをした顔，元気な声，42日ぶりに学校に活気が戻りました。夏休みには家庭や地域で様々な体験をしたことと思います。8月20日には，親子奉仕活動で，2学期のスタートに向けて保護者の皆様に協力いただいたことを感謝申し上げます。

さて，2学期は気候も学習や運動に打ち込むのに相応しい季節で，多くの行事もあります。この時期に，じっくり学習や行事に取り組ませて力をつけさせたいと思っています。学校では，1学期につけた力を2学期につなげるように丁寧に指導をしていきます。ご家庭でも，毎日の生活の中で成長を認め，励ましていただきたいと思います。子どもの成長ぶりをつなげて価値づけたり評価したりして，子どもにより大きな自信(自尊感情)を持たせていきたいと考えています。

始業式で，「続ける」という話しをしました。小さな歩みであっても，やり続けることによって大きな力になっていくことを教えていきたいと思っています。2学期もどうぞよろしくお願いいたします。

運動会 (9/23)

一学期以来、普段の体育の時間で培ってきたスポーツ関係の成果を確認する最大の行事です。隊形や行進、集合や分散など、集団行動の基本がどこまで出来るようになったか、集団での応援合戦を通したリーダー養成、みんなと協調して行動できる能力、演技や組み立て体操など、個人演技とはスケールの異なる美を追求する集団演技。どれもが、個ではなく、個性豊かな個人の集合体が集団で行動して成果を求めるときの基本技能やきまりを学ぶものです。個々の運動能力の成果とともに、集団としての行動のありようも見て頂きたいと思っています。

公表会 (10/14)

岐阜教育事務所指定の研修校として算数科の授業を通して「筋道立てて考え，表現する力」を育てようとして取り組んできました。今年度は職員の異動が多かったこともあり，学級担任22人の内、11人が新任若しくは転入の職員になり、前年度まで取り組んできたハンドサインの活用とともに、数量関係の理解や説明を，手を使って表現することで筋道立ててものを考える力を育てるという積み上げを継承しつつ、新しい実践に取り組んでいます。10月14日はその一定の成果を研修校の取り組みとして岐阜教育事務所管内の教職員に問う公表会を計画しています。

なかよし集会 (11/2)

6年生の児童が中心となって全校児童のために行う行事です。この行事をとおして6年生は最

長学年としての自覚や自主的な動きが鍛えられます。普段は学年毎に行動する機会が多い子どもたちが、1年生から6年生まで一緒に行動する中で、他学年の児童と進んでかかわり、互いに仲間として受け入れようとする心も育って行きます。

学校開放デー（10/29）

普段の学校生活では体験できないようなことを、身近な地域の方でその道に長けた方を講師として招き、体験活動を中心に学ぶという催しです。座って話を聞く内容よりも、実際に手足や体を使って作業や運動をする内容が大半で、子どもたちの創造性や工夫する心を刺激することになり、普段の学校や家庭生活では見られないような子どもたちの一面を垣間見ることができます。子どもたちには人気のある行事の1つになっています。受講する講座も決定し、9月1日にはご家庭へも連絡が届きますが、今年度は身の丈にあった学校行事とするために活動施設を限ったことと定員の関係から、保護者の皆さんには参観者の立場で参加して頂くことになりそうです。

「地域に生きる子どもたち」【478：216】，【12：34】，【13：1】

夏休み中の子どもたちの様子を見るために、ラジオ体操の会場を2回以上回りました。478名参加した体操に、216名の保護者や地域の方に見守っていただきました。地区によっては、児童12人に大人34人、児童13人に大人1人、と差がありましたが、多くの保護者や地域の方々に見守られながら、夏休みを過ごしていることを実感しました。

会場を回りながら気づいたことがあります。

- ①4地区、円くなって体操。誰がリーダーという訳でなく、互いを遠くに見ながらの体操。
- ②3地区、体操が終わった最終日に全員がほうきやちりとりを持参して会場を掃除。
- ③数地区、体操（集合、整列、挨拶等）を大人が積極的に関わり指導、子どもも整然。

ある地区では、連合自治会長さんや、地区役員さんが、別の地区では中央に91歳の方、両端に80代後半の方が前に立って体操をしておられました。いずれも前に立つ方は、子どもたちが動くように（鏡に映すように）逆の動きで体操をしておられました。他の地区では、6年生が前に立ちました。学校でラジオ体操を行う機会がないため、十分な見本となれず、それを見て行う体操が一層だれて、本来の体操の意味をなしていないところもありました。誰が前に立って、どう指導するかが課題です。

ラジオ体操は、夏休みになってもそれまでの学校生活と同じようなリズムで生活（6時頃には起床して活動）するための目安となるものです。ところが普段の生活でその6時30分にはまだ寝ている子どもがかなりいることが判明しました。つまり、夏休みはラジオ体操があるので、いつもより早起きをしている子どもがいるのです。最近は夜型の生活に慣れてしまっていますが、子どもの健康な生活、成長を考えたときに、早寝、早起きの励行に努めさせたいと考えております。夏休み中のお力添えを感謝申し上げますと共に、今後ともご協力の程をお願いいたします。

